

# 国際協力

2021.1.1

新春号

No.66

JICA駒ヶ根

## JICA海外協力隊派遣再開へ

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を受けて、2020年3月後半から4月にかけて、隊員全員が日本へ帰国しました。帰国後、不安な気持ちで過ごす待機隊員たちは、悩み、迷いながらも日本国内で自分たちが貢献できる活動をしていました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で人手不足になった長野県や群馬県の高原野菜産地で、農業支援に携わった隊員もいました。また、日本に居ながら創意工夫して、様々な形で任国とつながりをもち、日本からできる支援活動をしている隊員たちもいます。また、来るべき派遣に備えて、自分の技術を磨いたり、語学の学習をしている隊員たちもいます。

この度、JICAは、一部地域において新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せていること、入国／検疫措置を緩和する国が出てきたこと、国際航空便が再開基調にあることを踏まえ、安全と健康に留意しつつ、以下の考え方に沿って協力隊の派遣を国毎、案件毎に再開することとなりました。

- (1) 渡航再開の決定にあたっては、任国において感染状況が落ち着きを見せていること、本邦と任国間の移動ができること、任国での医療ケアが十分に受けられること等の条件が整っていることを確認します。
- (2) 国毎の条件確認に加え、本人の意向、任地の状況や活動・生活環境を確認し、必要に応じて任地、配属先、活動内容等を見直します。
- (3) 任国への渡航再開が決定されたとしても、個々の協力隊員の渡航可否は各人の健康状態を確認した上で判断します。

渡航再開の条件を満たしていると判断したベトナムについては、11月25日に、協力隊員の派遣再開となりました。また、カンボジア・ラオス・タイについて、案件毎に渡航再開の検討をして、12月上旬に派遣が再開されました。



ベトナムを訪問された北岡理事長(右)が再派遣された海外協力隊と意見交換

世界では、新型コロナウイルス感染症が再び拡大していますが、新型コロナウイルスと共存しながらの、協力隊事業の再開は、暗いトンネルの先に、少し明かりが見えてきたような気持ちです。

## 派遣再開を待ちながら 地域に貢献する隊員

伊那市出身の杉田純治隊員は、上伊那地域で教員をしていた時、駒ヶ根協力隊を育てる会の会員として、駒ヶ根訓練所をサポートして下さっていました。退職後、協力隊へ行きたいという夢が叶い、2019年12月アフリカのガボンへ小学校教育の職種で派遣されました。しかし、派遣されてわずか3ヶ月ほどで、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のために、日本への帰国を余儀なくされました。

そんな杉田さんは、8月終わりから駒ヶ根市の赤穂小学校で、算数の学習支援の活動をしています。小学校の現場に入ったのは、昭和62年以来という杉田さん。昔と違った丁寧な算数の教え方に感心されたそうです。ガボンでは、教科書、ノートを持っていない子供たちは、代わりに石板を持って授業を受けていました。先生が一方向的に教えるスタイルのガボンに比べて、日本は、皆で



教え合う協働学習をしていると気づかされた杉田さんは、「今回の赤穂小学校での算数支援は、自分にとって良い研修になっている。ガボンでも日本式がいいと押しつけないようにしたい」とおっしゃっていました。

そして、10月と11月には赤穂小学校の4年生3クラスにガボンを紹介。ガボンの鮮やかな布で作った衣装とマスクをして、世界地図を見せながら、ガボンに赤道が通っていることを説明、「ガボンに冬はない」という話



に、子供たちはびっくり！また、日本車が沢山走っている写真や珍しいフルーツが沢山売られている市場の写真を見せながら、ガボンの生活を説明。小学4年生が勉強する「ゴミ」の問題について、ガボンではゴミの分別がされていないと子供たちに伝えました。

ガボンの子供たちが、フランス語で「カエルの合唱」を歌う映像を見せ、「ガボンのカエルは何で鳴くでしょう？」正解は「グリグリ」。子供たちはまたまたびっくり！

ガボンでの滞在が3ヶ月余りとは思えない杉田さんの出前講座。教育者だからこそ、ガボンに降り立ったその日から、いつか日本で子供たちにガボンのことを伝えることを見据えながら過ごしていたんだろうと思い、大変感心しました。杉田さんは、週に3回フランス語のオンラインレッスンを受講し、いつ派遣再開になっても良いように、準備しています。日本国内で、派遣される日を待ち望んで準備しながら、日本社会で自分ができることを模索している隊員の皆さんにも、派遣再開のニュースは明るい希望です。

## 大学生が駒ヶ根訓練所語学講師による「オンライン語学体験プログラム」に参加！

駒ヶ根訓練所語学講師とオンラインでつながり、派遣前訓練で実施している語学レッスンを体験してもらう「オンライン語学体験プログラム」を開催しました。国際協力やJICA海外協力隊の活動について関心を高めてもらうことを目的とした、駒ヶ根訓練所の新たな体験型プログラム。

11月下旬から約1ヶ月間、4か国語7クラスに分かれて、毎週1時間のプログラムを合計4回開講し、長野県内の大学生26名が参加しました。

経験豊富な語学講師とのコミュニケーションを通じて、「ことば」を学ぶと同時に、協力隊の活動や駒ヶ根訓練所についても関心を持ってもらうことができました。

### スペイン語クラスに参加した 長野県看護大学・新田彩夏さん

「最初は全く触れたことのない言語を習うということで不安や心配がありました。先生が面白く、分かりやすく教えてくれて、楽しくスペイン語を習うことができました。」



### シンハラ語クラスに参加した 信州大学・宮嶋真由さん

「シンハラ語は今まで聞いたことも見たこともない言葉でしたが、スリランカ人留学生の友人がいるので興味を持ち参加しました。模様のような文字を見て初めは驚きましたが、レッスンを通じて挨拶や自己紹介ができるようになり、今まで以上に外国語に対する壁が低くなりました。」

## 特別派遣前訓練 in 駒ヶ根市の報告



JICA海外協力隊2020年度1次隊の佐野枝里菜（ベナン/コミュニティ開発）、渡邊博次（ボツワナ/コミュニティ開発）です。私たちは、9月から3ヶ月間、駒ヶ根市で「特別派遣前訓練」に参加しました。

駒ヶ根市の特別派遣前訓練では、駒ヶ根市の観光事業や多文化共生に携わっていました。

観光事業では、駒ヶ根観光協会と連携し、新たなツアーの作成に向けて活動しました。駒ヶ根観光協会は「焚火」を囲むアウトドア体験を、地域の新たなアピールポイントにするために取り組んでいます。

活動内容の1つ目は「焚火」を活用しながら、JICA駒ヶ根訓練所・JOCA本部がある駒ヶ根という場所の特性を活かし、派遣前訓練で行うチームビルディングやSDGsの講座等を絡めた企業研修ツアーを作成し提案しました。2つ目はインバウンド需要を見据えて、在住外国人を対象に焚火ツーリズムのモニターツアーを実施し、感想や意見等を調査しました。モニターツアーは近隣在住の外国人約40人に参加頂き、駒ヶ根地域を観光し、地域の市民団体の方から日本文化を教してもらい、地域の魅力を感じてもらいました。焚火体験では自分の国の歌を歌って踊ったり、火を見ながらゆっくり話したり、参加者は各々の楽しみ方で焚火を囲みコミュニケーションをとっていました。ツアーを通して、「地域への愛着が湧いた」「三味線に合わせて踊って楽しかった」等の感想をいただき、地域の魅力を知ってもらう機会にもなりました。駒ヶ根観光協会は「この提案を基に、今後ツアー化に向けて進めていきたい」と話していました。

また、多文化共生では、在日外国人向けに日本語教室やイベントなどを行う「地球人ネットワークinこまがね」で主に活動しました。外国人やボランティアの方々と一緒になって日本語教室に参加し、今後の日本語教室の方向性を提案したり、商店街の方にご協力いただき「まち歩き」等のイベントも企画しました。

元々は「外国人の方に駒ヶ根をもっと知ってほしい」という思いから企画し



まち歩き

た「まち歩き」でしたが、当日、皆さんが商店街の方と楽しそうに話している姿を見て、「地域の皆さんが外国人の方を身近に感じるきっかけ」にも繋がったと感じました。参加された市議会議員の方も、「外国人の皆さんが、こんなに日本語が上手だとは思っていませんでした。伝統的な地域のイベントにもぜひ参加を依頼したい」とおっしゃっていました。

また、外国籍住民の実態調査ということで、外国人材を採用している地元企業を10社ほど訪問し、採用に至った経緯や社内でのコミュニケーション等についてのお話を伺いました。この訪問をきっかけに、「地球人ネットワーク」のイベントに来てくれる方が増えたり、市の防災講座（外国人向け）に企業を通して参加していただき、とても嬉しく思いました。

特別派遣前訓練を通して、地域の皆さんとの関係性の築き方やどのように協働していくのかを学ぶことができました。ここで得た学びを忘れず、任地でも地域の皆さんと一緒に活動に取り組んでいきたいです。



駒ヶ岳へ行きました

## 特別派遣前訓練 in 飯田市の報告

私たちは長野県飯田市の川路地区において10月1日から3ヶ月間の特別派遣前訓練に参加しています。飯田市における私たちの活動について紹介します。

▶**白根 昇** (65才)：広島県出身、滋賀県在住。2020年度1次隊としてコロンビアに派遣予定です。職種は「病虫害対策」。特別派遣前訓練には、派遣を待つ待機時間を少しでも有意義なものにしたいという思いで参加しました。

この訓練での私のテーマは、

- ①天龍峡周辺エリアのマーケティング調査と提案
- ②川路地区の歴史的建造物の調査とその活用方法の検討の2つです。いずれも私の専門とはかけ離れたテーマですが、それだけに地元の方々のご協力を得ながら、新鮮な気持ちで楽しみながら活動しています。天龍峡のマーケティング調査にご協力頂いている下平さんからは、「外から



天龍峡

からの視点で観光地としての天龍峡を見た場合の意見は貴重です」とのお言葉を頂きました。また、歴史的建造物の調査にご協力頂いている歴史文化セミナーの方は、「時代の変化と共に、歴史を物語る建造物が消えていく中、地域の財産として記録を残しておくことは、地域住民の意識を高めるうえでも意味がある事だ」とおっしゃっていました。これらの活動を通じて、地元の皆さんが川路地区の魅力に改めて気付くきっかけになればと思っています。



天龍峡百年再生館にて飯田市観光課の下平さん(左)と

▶**岩谷 英孝** (22才)：三重県津市在住。「稲作栽培・食用作物」の職種でネパールに派遣予定です。今年の3月に大学を卒業し、9月まで農業法人で働いていました。延期になってしまった期間で何かできる事をしたいと思い、また様々な地域に赴く事が好きなので、この特別派遣前訓練に参加する事を決めました。

今回の特別訓練での私のテーマは、

- ①農家の方のお手伝いをしながら聞き取り調査を行う
  - ②市民農園の設立に向けて情報の収集や地域の方々にアンケート調査を実施する
- の2つです。現在、飯田市の川路地区は、地域活動や川路の将来に向けての活動がとても盛んに行われている地域です。その中でも農業を対象として、耕作されていない農地を有効に使う、子供たちを含め



ユーカリの収穫作業



市田柿の乾燥風景

たたくさんの人が農に触れられる機会を作る、地域の方々の交流の場を設ける、これらを目的として市民農園を提案させて頂いています。ボランティアとして外からきた者が企画していくという事の難しさを感じつつも、大勢の地域の方々に助けて頂きながら活動を行っているという事もあり、やりがいを感じています。今回の受け入れ先である川路自治振興センターの山下さんから、これまでの活動を振り返り「フットワークが軽く、いろいろな事に挑戦するお2人はどこへ行っても大丈夫だ」とのお言葉を頂きました。

# 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 施設訪問

～『異文化』を体験し、世界を、JICAを知る～

JICA海外協力隊の派遣前訓練が行われているのは、福島県二本松市にある「二本松青年海外協力隊訓練所」と長野県駒ヶ根市にある「駒ヶ根青年海外協力隊訓練所」の2ヶ所だけ。そんな貴重な訓練所を訪れて、世界をのぞいてみませんか？

訓練所では、学校、大学、企業や各種団体のみなさまに、世界や開発途上国のこと、国際協力や、JICA海外協力隊について、興味やご理解を深めていただくため、「施設訪問プログラム」(要予約／一部実費負担あり)を交付しています。国際理解教育やキャリア教育、企業・教員研修の一環としても利用されています。(例：小・中学校の総合学習や探求の時間の授業、初任者教員研修など)

## プログラムコース例

- 児童・小学生向け** (例：世界のあそびや民族衣装、楽器などで、異文化体験。触れて、感じて、世界を知ろう！)
- 中学生・高校生向け** (例：国際理解ワークショップや、語学講座体験や、協力隊経験者の体験談、協力隊疑似体験を通して、JICAやJICA海外協力隊を知ろう！)
- 大学生・一般向け** (例：JICAやJICA海外協力隊の概要説明、協力隊経験者の体験談、施設内見学でJICAや国際協力の歴史を知る！)
- 教員向け** (例：教員の協力隊経験者の体験談、授業で使える国際理解教育の教材の紹介、開発途上国の教育現場の状況や課題についてのワーク型講義、国際理解教育に触れる！)

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5月までは受け入れをお断りしていましたが、6月から再開し沢山の方々にお越しいただきました。

## 参加者の声

◆**阿南第二中学校** 阿南第二中学校は6月に予定していた訓練所の施設見学が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期になり、リモートで隊員や隊員経験者とオンライン交流を続けてきました。4ヶ月間にわたり、国際協力やJICAや派遣国について学びを深め、その学習成果を発表する機会として、10月に訓練所を訪問しました。生徒は、さまざまな個性あふれる発表をしてくれました。その他にも民族衣装の試着やシンハラ語の語学体験を通し、国際協力に対する興味・関心を深めました。

♥**生徒の声** はじめは、JICAやモルディブのことは全く知りませんでした。だけど、交流していた隊員経験者さんに色々教えてもらっているうちに、すごく興味を持ちました。ありがとうございました。



◆**伊那北高校 フィールドワーク** 総合的な探求の時間の一環として、訓練所を利用していただきました。国際協力に興味関心のある生徒も多く、国際理解ワークショップ(世界がもし100人の村だったら)や、協力隊経験者の体験談を通し、世界の状況やJICAの活動を学びました。

♥**生徒の声** 世界を舞台に活躍する職業に興味があったので、JICA海外協力隊の方の体験談などが沢山聞けて充実した一日になりました。

只今、来年度に向けて「施設訪問内容」をリニューアル中です。皆さんお楽しみに!!!

※新型コロナウイルスの感染状況や、派遣前訓練期間中は、受け入れ不可の場合もございます。詳しくは、担当者までお問い合わせください。

## ■お問い合わせ

JICA駒ヶ根 担当：若林  
Tel.0265-82-6151  
Fax.0265-82-5336  
E-mail:jicakjv-jocv@jica.go.jp

# 第27回 みなこいワールドフェスタは オンラインで開催されました！

今年のみなこいワールドフェスタ協力隊週間は、新型コロナウイルス感染症の影響で大勢の人が集まるような形での開催ができませんでした。

そこで公式サイト上での協力隊週間を考え、3つの企画を行いました。

- ①協力隊週間のあゆみを振り返る
- ②オンライン上でのスタンプラリー
- ③JICA海外協力隊隊員経験者の今の活動を紹介

オンラインで開催したことで、今までこのイベントに来られなかった人や、初めてこの事業を知った人が楽しんでもらえる機会となりました。また、大勢の協力隊経験者の方に協力をいただいたことで、協力隊と地域の人たちとが繋がるきっかけになればと思います。

このサイトは当分の間開設し、次回の協力隊週間へ活かします。(みなこいワールドフェスタ坂元洋実行委員長)

## 世界をおさんぽ オンラインスタンプラリー

家にいながら楽しめるようにとたくさんの方々と工夫を凝らしたオンラインスタンプラリー。「世界の料理レシピ教室」「プチ語学教室」「各国大使の方々からのメッセージ」「世界の手遊び」「世界をプチさんぽ」などの動画が盛り沢山で、素材は大使館、JICA駒ヶ根訓練所、JOCA、JICA海外協力隊員・OB/OG、友人らが各地から送ってくださいました。

参加者から「地球儀で探しながら楽しんでいます」「スルガロン戸と歌を思わず口ずさんでしまう戸」などうれしい声が次々と聞こえてきました。動画提供のモデルディブ人の方は「日本の子どもたちとつながる、

こんな素敵な機会を作ってくれてありがとう」とメッセージを、スタッフからは「地元以外の友人にも紹介出来たことがとても嬉しかったし、誇らしくもありました」の声。なんとも感慨深い思いです。

景品の特製LINEスタンプは各国・伊那谷の挨拶に加え、名物「協力隊入口」番号もあり、まさに「特製!」です。ダウンロード用めりえは訓練所のスペイン語講師の石井裕之先生作で、その見事な出来には驚くばかりでした。

初オンライン開催は試行錯誤の連続でしたが「世界のどこからでも!」だけでなく「足腰が悪くて普段はお祭りに行けない人も楽しめる」という地元の方の声も聞ける大変貴重な経験となりました!



ラインスタンプ



## JICA海外協力隊ネパール派遣50周年記念事業

JICA海外協力隊員がネパールに派遣されて2020年で、50年となります。ネパールと関わりの深い駒ヶ根において、JICA海外協力隊の帰国隊員の活動や隊員の目線を通した50年にわたるネパールの変遷や現状を知る機会を提供し、国際協力に対する理解を促す目的で、以下のイベントが開催されます。

### 「JICA海外協力隊ネパール派遣50周年記念写真展&トークイベント」

〈写真展〉 期日／令和3年1月9日～29日 場所／駒ヶ根市地域交流センター(赤穂公民館) ギャラリー  
内容／歴代のJICA海外協力隊ネパール帰国隊員の活動写真や、帰国隊員や駒ヶ根市民が撮影したネパールの風景、文化の写真を展示。

〈トークイベント(Zoomでも配信予定ですので遠隔地からも参加可能)〉

期日／令和3年1月23日(土) 15:00～16:30 場所／駒ヶ根市地域交流センター(赤穂公民館) ホール

主催／協力隊ネパール会 問合せ先／nepalkai@chautara-kaze.com

発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail jicakjv@jica.go.jp  
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)

までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりの情報をリアルタイムでお届けします。